来て！見て！図書館（としょかん）

開館時間
午前9時～午後7時

休館日
2月2日(月)・3日(火)・9日(月)・16日(月)・24日(火)、3月2日(月)・3日(火)・9日(月)

※休館日の図書の返却はブックポストをご利用ください。

●図書館●
佐間3―24―7（「みらい」内）
TEL:556―4227
FAX:555―3770

ぬいぐるみおとまり会

お気に入りのぬいぐるみを１日だけ図書館にお泊まりさせてみませんか。一緒に読み聞かせに参加した後にぬいぐるみをお預かりします。

▶日　時　2月28日(土)午後４時集合、3月１日(日)午前11時お迎え
▶場　所　図書館ミーティングルーム
▶対　象　小学校低学年以下（行田市立図書館の利用カードをお持ちの方）
▶定　員　6人（定員を超えた場合は初めての方を優先し、その後抽選。参加が決定した方には2月22日(日)までにお知らせします）
▶費　用　無料
▶持ち物　お気に入りのぬいぐるみ
▶その他　・申し込み時にぬいぐるみの名前を伺います。
・お渡しするアルバム作成のため、お子さんとぬいぐるみの撮影をします。
▶申し込み　2月15日(日)までに直接、電話、行田市電子申請・届出サービスのいずれかの方法により同館

電子申請・届出サービス

大人のためのミニ朗読会「春」

▶日　時　3月15日(日)午後１時30分～２時40分（午後１時開場）
▶場　所　中央公民館第１学習室
▶内　容　・「くものきれまに」木村裕一／作 あべ弘士／絵 講談社
・「小泉八雲集」より「雪おんな」小泉八雲／著 新潮文庫
・「3分で仰天！大どんでん返しの物語」より「おみくじ器の予言」佐藤 青南／著 宝島社
・「夏の葬列」より「十三年」山川方夫／著　集英社文庫（計４作品）
▶定　員　70人（先着順）
▶協　力　行田朗読の会
▶その他　申し込みは不要です。

行田歴史系譜 383

資料がかたる行田の歴史 83

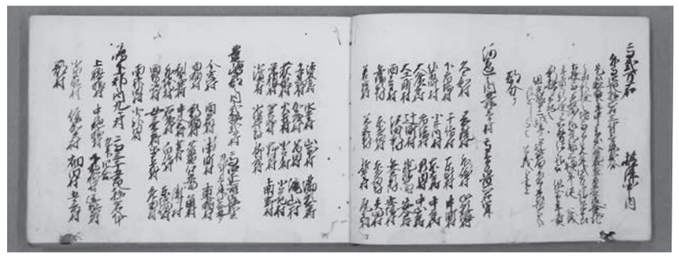
摂津国（せっつのくに）の忍藩領 ～2万石の飛地（とびち）との縁（えにし）～

江戸時代の忍藩は現在の大阪府と兵庫県にまたがる摂津国にも所領を持っていました。忍藩主阿部家が摂津分領を統治し始めてから、今年で340年を迎えることから、今回は飛地の忍藩領について紹介します。

貞享3（1686）年正月21日、当時の忍藩主阿部正武（まさたけ）は1万石の加増を受けます。正武は上方筋に所領を持っていなかったので、摂津国川辺郡（かわべぐん）に所領を与えられたようです。領知高が10万石に到達した元禄7（1694）年には、摂津国の豊島（てしま）・島下（しまじも）・武庫（むこ）各郡にさらに1万石加増され、摂津国の忍藩領は合計2万石、85カ村となりました。

2万石の摂津分領の統治は、新田中野（しんでんなかの）陣屋（現在の兵庫県伊丹市）を拠点に行われました。領内は新田組、昆陽（こや）組、芝（しば）組の3組に分けられ、各組を取りまとめる大庄屋（おおじょうや）たちが触書の伝達、年貢収納などを担うことで、民政全般にわたり忍藩の陣屋役人と各村の藩領民をつなぐ大切な役割を果たしていたことが現地の研究者の調査によって判明しています。

こうした摂津分領の統治が100年目に差し掛かった天明5（1785）年正月21日、大坂城代を務めていた忍藩主阿部正敏（まさとし）は、摂津分領の拝領100年を記念した祝賀を家中で催しています。同時に、正敏はかつて祖父正喬（まさたか）が新田中野村に建立した稲荷社を再建します。阿部正識（まさつね）（正敏の嫡男で後に忍藩主）がその由来を揮毫（きごう）した扁額（へんがく）は残念ながら平成7（1995）年の阪神・淡路大震災で失われてしまいましたが、摂津国と忍藩の歴史的な結びつきは今もなお現地で語り継がれています。



阿部家領知惣高寄（個人蔵・郷土博物館寄託）

（郷土博物館　澤村怜薫）

クローズアップ！！ ぎょうだの会社を

株式会社オンデザイン丸巳事業部

南河原スリッパの伝統を次世代に②

会社プロフィール

代表取締役　岡田　知貢
【事業内容】スリッパ製造業
【所 在 地】南河原141

市報ぎょうだ12月号（№954）では、南河原のスリッパ産業を長年牽引してきた丸辰商店を紹介しました。今月はその丸辰商店から技術やノウハウを受け継ぎ、南河原スリッパの伝統を守ろうとする株式会社オンデザイン丸巳事業部を紹介します。

同社代表取締役の岡田知貢さんは建築デザイン設計や店舗デザイン業務などを中心に事業展開し、南河原商工会の会員として活動してきました。しかし、顧客の多くが飲食店であることからコロナ禍で仕事が減少。そんな折、南河原商工会から同社の強みである「デザインの知見を生かせるのでは」とアドバイスを受け、南河原スリッパの商品開発に携わることになりました。

そこで出会ったのが丸辰商店の和泉文夫さん。岡田さんは、最盛期に40社程あったスリッパ製造業者もわずか4社という南河原スリッパの厳しい現状を知るとともに、一緒に商品開発を行う和泉さんもまた廃業しようとしていることを聞きました。

幼い頃から知る南河原スリッパが「このままではなくなってしまう」、丸辰商店が廃業したら「商工会が進める南河原スリッパプロジェクトも頓挫してしまう」そう思った岡田さんは丸辰商店を引き継ぎ、スリッパ業界に参入することを決意しました。

職人の世界では「技術は目で見て盗め」とされることもありますが、和泉さんは岡田さんや職人たちに優しく手取り足取り教えてくれるだけでなく、裏方のフォローなども快く引き受けてくれるそうです。こうした和泉さんの思いに応えるべく、岡田さんは日々スリッパ製造や商品開発に力を入れて取り組んでいます。

「南河原の伝統を継承して守るべきところと、変えていくべきところがある。その見極めが重要」と岡田さんは語ります。「伝統」と「革新」。岡田さんの胸には海外進出なども見据え、南河原スリッパのリブランディングに向けた熱い思いが宿っています。そして最後に「時代の流れとともになくなるものもあるけれど、スリッパは今の日本文化に適合していて、自然淘汰されるべきものではない」とスリッパへの思いを語ってくれました。

また、丸巳事業部は令和7年度に県知事から彩の国工場の指定を受け、「皆さんに気軽に工場見学に来て欲しいから」と地域に愛される工場づくりを進めています。伝統ある南河原スリッパにご興味のある方は、ぜひ一度同事業部を訪ねてみてください。

俳行壇田（ぎょうだ はいだん）

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。**※毎月末日必着**

なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

笛方の微妙にずれて里神楽　棚田町　川鍋　幽覚

【句評】神楽は宮中の「御神楽」と各地の諸社などで演じられる「里神楽」に分類される。主に秋以後年末にかけて催されるので冬の季語となっている。掲句は里神楽を詠んだものである。専門職が演じる御神楽と違い、地域の保存会が演じる里神楽ではやし方も踊り手もリズムが狂うことがある。それも愛嬌の一つであり、ほほ笑ましい一句である。

星月夜思ひ出尽きぬ娘の遺影　荒木　髙澤よね子

【句評】子が親を看取ることが浮世の常であるが、作者は逆の現実をみたのである。その心中はいかばかりであったろうか。親が特別長寿であった際は起こりうる現象でもある。いずれにしてもその切なさがにじむ一句である。一方、星月夜は秋の季語であり、今後はできる限り当季雑詠で投句していただきたい。「冬銀河」ぐらいでもよかったかもしれない。

乗り遅れホームの端の日向ぼこ　藤原町　斎藤雄次郎

【句評】原句は「乗り換えの」となっていたが、これでは一句の余情が生まれない。俳句は助詞の一字を変えるだけでも活気的に変化する文芸でもある。慌てふためいてホームに駆け込んだが間一髪間に合わず乗り遅れてしまった。照れくさそうにホームの隅で次の便を待つ客の姿の方が哀愁感がにじみ面白い。誰にでもありそうな経験で共感できる。

初日の出犬吠埼の海平ら　谷郷　羽石　芳道
郵便夫枯野の中の一つ家に　南河原　和泉　貫一
寒月や来し方想ふ米寿の夜　忍　大澤　由子
ＡＴＭに列年の瀬の年金日　小見　川島　盾子
重宝にされる老の手年用意　富士見町　江利川敏夫
スマホ手に礼所めぐりの年の暮　和田　小林　博矣
冬満月仰ぎつ百歩白寿かな　長野　長谷川幸江

（三沢一水 選評）